

【担当教員】

芳井 幸子

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

今年度は十五年戦争期を中心にとりあげる。戦争の開始を契機に進展していく国内の軍国主義化、国際的孤立化、更なる戦争拡大など、十五年戦争展開の経緯をたどりながら、戦前日本社会の問題を考察する。

【授業キーワード】

侵略戦争、軍部、天皇制、政党、敗戦

【授業内容及び授業方法】

毎回配布するレジュメに沿って講義する。講義内容に関連するビデオの視聴も、適宜行いたい。

【授業項目】

1. 満州事変(5回)
 - ・柳条湖事件とその背景
 - ・満州事変と国際連盟
 - ・五・一五事件と政党内閣の終焉
 - ・軍国主義化の進展
 - ・広田内閣と軍部
2. 日中戦争(3回)
 - ・近衛内閣と日中戦争の全面化
 - ・戦線の拡大と長期戦化
 - ・第二次世界大戦の勃発
3. アジア・太平洋戦争(4回)
 - ・第二次近衛内閣と日独伊三国同盟の締結
 - ・日米交渉と開戦
 - ・緒戦の勝利と戦局の転換
 - ・戦時体制
4. 敗戦(2回)
 - ・ポツダム宣言と原爆投下
 - ・戦争責任と東京裁判
5. 期末テスト

【教科書】

特定のものを使用しない。

【成績の評価方法と評価項目】

課題レポート	50%
期末試験	50%

試験実施方法及び評価基準

- 1、今年度は期末テストを実施します。参考書、ノートの持ち込みは不可。ただし参考資料を配布します。
- 2、学期中に、二～三回のレポート提出を求めます。

【留意事項】

高校時代に日本史を学ばなかった学生は、特に受講を勧めます。

【担当教員】

相沢 央

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

日本古代の律令国家による支配の特質と古代社会の構造を理解すること。

【授業キーワード】

律令、遺跡、木簡、墨書土器

【授業内容及び授業方法】

律令国家による支配の仕組みと古代地方社会の構造を、文献史料とともに、近年の発掘調査によって急増する木簡、墨書土器など、最新の出土文字資料を活用しながら、具体的に論じる。毎回配付する資料によって授業を行い、授業についてのコメント(感想、質問等)を提出してもらおう。

【授業項目】

1. はじめに-現代社会と古代-
2. 出土文字資料について
3. 律令国家の収奪体系
4. 墨書土器と古代村落の構造

【教科書】

なし。毎回配付する資料を用いる。

【参考書】

授業の中で示す。

【成績の評価方法と評価項目】

出席と期末テストによる。

【留意事項】

特になし

【担当教員】

今野 哲

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

日本の近代小説に描かれた人間像をとらえることを中心に、文芸作品の美的構造を理解し、小説の鑑賞法を学ぶ。さらに、小説の鑑賞を通して、人間や社会についての認識を深める。表層的な印象・感想レベルの理解ではなく、多面的・多角的に精読できる力を養う。

【授業キーワード】

作家と作品、作者・語り手・作中人物・モデル、近代小説と古典・伝統(近代と反近代)

【授業内容及び授業方法】

今年度は、芥川龍之介「地獄変」(大7、1918)「奉教人の死」(同)、川端康成「伊豆の踊子」(大15、1926)、谷崎潤一郎「春琴抄」(昭8、1933)の4作品を取り上げ、講読を行う。毎授業時に配布するプリントをもとに講義を行う。随時、講義内容に関する理解度を確認し、進度・講義内容に微調整を加えながら授業を進める。なお、授業時に簡易なレポートを作成して、時間内での提出を求めることがある。

【授業項目】

- 1、芥川龍之介「地獄変」「奉教人の死」(6週)
 - 1) 芥川龍之介-作家概説
 - 2) 「地獄変」講読
 - 3) 「奉教人の死」講読
- 2、川端康成「伊豆の踊子」(3週)
 - 1) 川端康成-作家概説
 - 2) 「伊豆の踊子」講読
- 3、谷崎潤一郎「春琴抄」(3週)
 - 1) 谷崎潤一郎-作家概説
 - 2) 「春琴抄」講読

*1~3に関しては、これまでに示されたさまざまな研究成果についても可能な限り言及し、最終的に受講者各自の見解をまとめられるようにする。
- 4、近代小説における人物造型(2週)

*4は、授業全体のまとめであり、近代小説における人物造型を軸に、小説というジャンルの特質について講じる。
- 5、定期試験(1週)

【教科書】

芥川龍之介『蜘蛛の糸・地獄変』(角川文庫)
川端康成『伊豆の踊子』(新潮文庫)
谷崎潤一郎『春琴抄』(新潮文庫)
一応、以上のように定めるが、上記の文庫以外のものであっても可。(既に持っている本があれば、それを使用しても構わない。)

【参考書】

参考書・参考資料に関しては、授業時に適宜紹介または配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

- 1、評価方法
定期試験の成績(60%)を中心に、小レポート・授業への参加度(40%)を加味して総合的に評価する。
- 2、評価項目
文芸作品の主題・美的価値・表現の特質などについて理解できること。
先行の論文・資料等における見解を整理・評価できること。
文芸作品に対する主体的な分析・読解ができること。
自らの見解を明快な文章で提示できること。

【留意事項】

授業で取り扱う作品については、各自で事前に読んでおくこと。

スポーツ方法論(体育実技)Ⅰ

Sports Methodology (Physical Exercises) 1

実習 1単位 1学期

【担当教員】

塩野谷 明

【授業目的及び達成目標】

身体運動を初歩的な工学、スポーツバイオメカニクスの視点から捉え、より高度な運動パフォーマンス習得のための科学的基礎および理論を実技をとおして学ぶ。

【授業内容及び授業方法】

ひとつの教材(テニス)をとおして、そこでの運動強度や活動量および力学的視点にたった技術論をグループ単位で行うとともに、幅広い身体活動(運動・スポーツ)に関する基礎的知識を身に付ける。

【授業項目】

(教材に関して)

1. ゲームが行えるまでの技術の総括
2. フォアハンドストローク
3. バックハンドストローク
4. サービスとボレー
5. 教材における運動強度・活動量
(身体活動に関する基礎に関して)
6. 脂肪量・脂肪率の計測
7. 適性運動強度の算出(PWC75%HRmax)
8. 体力テスト(簡易テストならびに形態計測)
9. 最大挙上重量(1RM)
10. 救急法
11. 着衣水泳
12. 13. 14. 15. ゲーム

注)スポーツ方法論については、授業項目の頭の番号は授業回数を示すものではない。

【参考書】

- 「新・テニスの科学」テニスジャーナル社(塩野谷 明他)
「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店(塩野谷他編著)

【成績の評価方法と評価項目】

上記学習項目に関する冊子(30頁程度)を配布、冊子レポート内容を完成させることで評価する(40点)。ただし出席点を重視(60点)。

スポーツ方法論(体育実技)II
Sports Methodology (Physical Exercises) 2

実習 1単位 2学期

【担当教員】

塩野谷 明

【授業目的及び達成目標】

スポーツ方法論(体育実技)Iおよび健康のためのスポーツ科学を基礎として、各自の健康保持・増進と生涯スポーツに結び付けるきっかけを掴ませるとともに、集団行動での自主性・主体性を求める。

【授業内容及び授業方法】

授業全体15回を3つに分け、多くのスポーツ種目を体験させる。実技種目、内容は自由にプログラムさせ、学生の自主性に任せて行なわせる。合わせて救急蘇生法や着意水泳といった運動実践各論、およびスポーツ方法論Iで行った体力テストについても実施、体力テストについては1年時との比較を行う。

【授業項目】

(実技種目)

1. 屋内体育館種目(バスケット、バレー、フットサル、卓球、バトミントン等)
2. 屋外種目(テニス、ゴルフ、サッカー、ソフトボール)
3. 屋内トレーニング種目(ウェイトトレーニング、有酸素トレーニング、水泳)

(実技課題)

5. 自主性・主体性(この内容について重視する)
6. 体力テスト(スポーツ方法論I 冊子に準じる)
7. 救急蘇生
8. 着衣水泳

注)スポーツ方法論については、授業項目の頭の番号は授業回数を示すものではない。

【参考書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂出版(塩野谷他編著)

【成績の評価方法と評価項目】

自主性・主体性についてのチェック(20点)、課題レポート(20点)および出席点(60点)

【留意事項】

健康のためのスポーツ科学を受講しておくことが望ましい。
また、スポーツ方法論I 冊子(資料)を参考。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

経営情報系棟502

【授業目的及び達成目標】

「多様性」、「普遍性」、「創造性」の観点から、ことばの背後にある心と脳がどのように働いているのかを探ることで、また、我々は世界をどのように解釈し人と関わっているのかを探ることで、我々がふだん無意識に使っていることばを見直す。

【授業内容及び授業方法】

視聴覚教材と授業時に配付するプリントをもとに講義を行う。

【授業項目】

1. 手話から言語の本質を知る

知覚・産出手段により言語は大きく二つに分けられる。すなわち、聴者が用いる音声聴覚言語と聾者が用いる手指視覚言語の手話である。手話には様々な誤解や偏見が存在する。この手話に対する偏見と誤解を解くことで、言語の本質と人間の可能性を考えてみる。

2. 世界の諸言語から日本語を見る

世界には様々な言語が存在し、実際の生活の中で用いられている。それらの言語と日本語を比較することで、日本語とはどのような言語なのかを考えてみる。

3. 外国人に日本語を教える

本学にはアジアを中心に160名程度の留学生が在籍している。また、日本国内や海外で多くの外国人が日本語を学んでいる。外国人に日本語を教えるとはどういうことなのかを考えてみる。

【教科書】

なし

【成績の評価方法と評価項目】

学期末試験によって行う。

【担当教員】

塩野谷 明

【教員室または連絡先】

体育・保健センター(内9823)
shiooya@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

心身の健康とスポーツの関係をスポーツバイオメカニクスに基いて理解させるとともに、スポーツ方法論(体育実技)での実践内容について、より理論的な意味付けを行ない、健康のための生涯スポーツを実践する知識と能力を養う。併せて、スポーツに関する身近な話題から、本学の専門分野である工学とスポーツの関連性について考えさせる。

【授業内容及び授業方法】

資料、スライド、OHP、VTR等を併用して進める。

【授業項目】

1. 総論:健康に関与する体力とは
2. 総論:精神的要素～YGテストによる評価
3. 総論:身体的要素～スポーツ方法論における体力テストによる評価
4. 総論:健康問題総論
5. 各論:エネルギー代謝～有酸素性と無酸素性代謝
6. 各論:心拍数のもつ意味
7. 各論:最大酸素摂取量、PWC75%HRmax
8. 各論:AT、LT、VT～マラソンを完走するためには?
9. 各論:パワーについて
10. 各論:筋の特性
11. 各論:健康のためのスポーツ実践
12. 各論:ウォーキング
13. スポーツ方法論IIへのいざない
14. トピックス:ジャンプ競技のV字飛行
15. 紙飛行機コンテスト

【教科書】

「健康ライフをめざす基礎知識」考古堂書店(塩野谷他著)
購入は授業開始後指示するので、先に自分で購入することのないように)

【成績の評価方法と評価項目】

各学習項目毎の10分間レポート、講義ノート提出

【留意事項】

選択ではあるが、スポーツ方法論との関連が強いため、履修しておくことが望ましい。最終日に紙飛行機(自作:独創性を求める)飛行コンテストを行なう。ジャンプ競技のV字飛行の原理を考える。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学・経営情報棟504

【授業目的及び達成目標】

多様な世界観と価値観の諸相をヨーロッパ精神史の流れに沿って考察し、自然・社会・人間のありようを把握する際の、ものの見方・考え方の重要性を認識させる。西洋哲学の基礎概念を体系的に修得し、哲学的思考形態の習熟が主要な課題である。この科目は哲学入門としての性格も兼ね備えている。

【授業キーワード】

世界観、価値観、人間観、哲学・倫理思想、人類の幸福

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、随時、確認小テストを行う。また適宜レポートを課す。

【授業項目】

1. 西洋思想の源流
2. ギリシャ古典時代の哲学と世界観
 - 1) ソクラテス以前の自然哲学
 - 2) ソフィストとソクラテス
 - 3) プラトン、アリストテレス
3. ヘレニズムの人間観と価値
エピクロス学派とストア学派
4. 中世キリスト教世界の人間観
 - 1) 初期教父哲学
 - 2) スコラ哲学
5. ルネサンスと宗教改革
 - 1) イタリア・ヒューマニズムの思想
 - 2) マルティン・ルター
6. 近世・近代の思想
 - 1) デカルトと合理主義的人間観
 - 2) イギリスの経験論とフランス啓蒙主義思想
 - 3) カントとドイツ観念論
7. 二十世紀の思想
マルクス主義、実存主義、プラグマティズム
8. 世界観の類型と変容
9. 価値観の諸相と系譜
10. その他

【教科書】

「西洋哲学思想史」山下太郎 北樹出版
適宜プリントも配布・使用する。

【参考書】

「ヨーロッパ精神史」飯塚勝久・水野建雄編著(北樹出版)
「西洋哲学史」内山勝利・中川純男編著(ミネルヴァ書房)

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(70%)および平常点・小テスト・レポート(30%)の結果により総合的に評価する。

【留意事項】

世界史の大まかな流れを把握しておくことが望ましい。

【担当教員】

加藤 幸夫

【教員室または連絡先】

化学・経営情報棟504

【授業目的及び達成目標】

人間存在に関する基本問題を、倫理学基礎論の考察を通じて明らかにし、同時に高度技術社会としての現代の社会構造を分析し、現代人としてのあり方を主体的に探らせる。それをベースにして、現代社会における技術者倫理についても考察する。内容的に倫理学入門にも相応する。

【授業キーワード】

人類の幸福・福祉、人間と倫理、責任論、技術社会、技術者倫理

【授業内容及び授業方法】

講義形式を主体とするが、受講者が少人数の場合には、討論形式も併用する。随時、確認のための小テストを行う。数回レポートを課す。

【授業項目】

- 1 人間論の成立
- 2 人間論の類型
- 3 人間存在論
- 4 倫理学基礎論
- 5 人間と倫理
- 6 規範倫理理論
- 7 技術と倫理
- 8 倫理的責任論
- 9 技術者倫理
- 11 現代倫理学の課題
- 12 その他

【教科書】

未定:適宜プリントも配布する

【参考書】

- 「転換期における人間」第8巻(岩波書店)
- 「人間学」ハイメ・カスタニエダ・井上英治編(理想社)
- 「技術倫理」C.ウイットベック(札野 順・飯野弘之訳)。みすず書房

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験(70%)および平常点・小テスト・レポート(30%)の結果により総合的に評価する。